

経営は愛、愛は覚悟



デンソー会長
経団連モビリティ委員長

ありま こうじ
有馬 浩二

この言葉にめぐり合ったのは、社長に就任する少し前の2014年7月のこと。医療法人財団献心会の理事長であり、川越胃腸病院(現、川越胃腸センター・クリニック)の院長である望月智行先生との出会いは鮮烈だった。

その後、2016年には当社に講師としてお招きし、役員や部門長にも経営の極意を授けていただくなど、貴重なご縁を頂戴した。望月先生の数々のアドバイスの中でも、特にこの言葉は、新米社長として駆け出しの時から今日に至るまで、経営のかじ取りを行っていくうえで、常に私のよりどころとなっていた大切な指針の一つである。

望月先生については、今さら紹介するまでもないが、医療界で初めて日本経営品質賞を受賞された川越胃腸病院の院長であり、現役の医師でありながら先駆的な病院経営を実践された大経営者である。「医療は究極のサービス業」という考え方のもと、患者の満足度向上と、その源泉となる職員の幸福感向上に取り組み「ひと中心の経営」は、他の病院のみならず、多くの企業のモデルとなっている。

「モノづくりは人づくり」を哲学とする当社としても、望月先生の理念には非常に共感する部分が多く、私個人にとっても経営者の大先輩として、ご多忙な日々の合間を縫ってお会いさ

せていただいたり、年賀状や手紙をやり取りさせていただいたり、大変ありがたいことに今でも交流を続けさせていただいている。

「経営は愛、愛は覚悟」という言葉は、そのシンプルな響きの中に、とてつもない奥深さが潜んでおり、てっきり理解・実践したつもりになつては、時々ハツとさせられる不思議な言葉だ。会社の規模や業種の違いにかかわらず、普遍的な経営の理論や人事管理の原理原則の大切さを思い起こさせてくれると同時に、「競争力の源は人である」という経営の原点に立ち返るスイッチのような役割を果たしてくれている。

当社は、環境と安心を通じて、人々の幸福や心豊かな社会づくり、笑顔あふれる未来づくりに貢献するという理念を掲げているが、その実現のためには、まず社員同士が心を通わせ、自分たちが笑顔でなければならぬと考えている。私自身、「情熱と笑顔」を信条としており、先行き不透明な時代だからこそ、情熱と覚悟をもって事に当たり、社員に笑顔があふれる会社を目指してきた。

望月先生のような経営にはまだまだ遠く及ばないが、この言葉を胸に、愛にあふれた会社づくりを通じて、笑顔あふれる社会づくりに貢献したいと改めて感じる。